### outputcsv

特定フィールドの値をCSVまたはTSVファイルとしてエクスポートします。

#### 構文

outputcsv [OPTIONS] FILE\_PATH FIELD, ...

必須パラメータ

**FILE\_PATH**

CSV/TSVファイルとして出力するパス

**FIELD, ...**

CSVまたはTSVファイルに出力するフィールドリスト。フィールドの区切りにはカンマ（,）を使用します。

CSVおよびTSV形式では、すべての行でフィールド構成が同一である必要があるため、ログプレッソ・ソナーのoutputcsvコマンドを使用する際は必ず出力フィールドを定義してください。出力フィールドの順序に関係なくデータをエクスポートしたい場合は、outputjsonコマンドを使用してください。

オプションパラメータ

**append=BOOL**

FILE\_PATHに既存ファイルがある場合の追記制御オプション（デフォルト：f）

1. t: FILE\_PATHで指定したファイルの末尾にデータを追記し、ファイルが存在しない場合は新規作成します。overwrite=tと同時には使用できません。
2. f: 追記を無効化。既にファイルが存在する場合、クエリは失敗します。

**bom=BOOL**

ファイルヘッダーにBOM（Byte Order Mark）を付与するかどうか

1. t: BOMをファイルヘッダーに追加
2. f: BOMをファイルヘッダーに追加しない

**encoding=CHARSET**

文字列エンコーディング形式（デフォルト：utf-8）。以下のドキュメントに登録されたPreferred MIME NameまたはAliasesを使用してください：<http://www.iana.org/assignments/character-sets/character-sets.xhtml>。

**flush=INT{y|mon|w|d|h|m|s}**

出力バッファをフラッシュするインターバル。単位はy（年）、mon（月）、w（週）、d（日）、h（時）、m（分）、s（秒）から選択できます。例えば5秒ごとにバッファをフラッシュする場合は5sと指定します。

**overwrite=BOOL**

FILE\_PATHに既存ファイルがある場合の上書き制御オプション（デフォルト：f）

1. t: ファイルの上書きを有効化。append=tと同時には使用できません。
2. f: 上書きを無効化。既にファイルが存在する場合、クエリは失敗します。

**partition=BOOL**

FILE\_PATHのマクロ機能制御オプション（デフォルト：f）。partition=tの場合、FILE\_PATHにマクロを利用して時刻に応じてディレクトリやファイルパスを動的に変更できます。

1. t: マクロを有効化
2. f: マクロを無効化

: 利用可能なマクロは{logtime:FMT}および{now:FMT}です。入力例は使用例2を参照してください。

1. {logtime:FMT}: ログ発生時刻を基準にディレクトリやファイル名を付与
2. {now:FMT}: 現在時刻を基準にディレクトリやファイル名を付与

パーティションオプションを指定し、かつパスにマクロを使用しない場合、クエリは失敗します。

**tab=BOOL**

フィールド区切り文字としてタブ（tab）を使用するかどうか（デフォルト：f）

1. t: タブ文字を区切り文字として使用。TSV（Tab-separated Values）ファイルの処理に有用です。
2. f: 区切り文字としてカンマ（,）を使用

**tmp=TMP\_FILE\_PATH**

一時ファイルパス。このオプションを設定すると、一時ファイルを作成してそのパスに出力し、クエリが正常終了した時点でFILE\_PATHで指定したファイルパスに移動します。

#### 使用例

ippair.csvファイルに**src\_ip**および**dst\_ip**フィールドの値を記録

json "[ {'src\_ip':'192.0.2.1', 'dst\_ip':'198.51.100.1'}, {'src\_ip':'192.0.2.2', 'dst\_ip':'198.51.100.2'}, {'src\_ip':'192.0.2.3', 'dst\_ip':'198.51.100.3'}, {'src\_ip':'192.0.2.4', 'dst\_ip':'198.51.100.4'}, {'src\_ip':'192.0.2.5', 'dst\_ip':'198.51.100.5'}, {'src\_ip':'192.0.2.6', 'dst\_ip':'198.51.100.6'}, {'src\_ip':'192.0.2.7', 'dst\_ip':'198.51.100.7'}, {'src\_ip':'192.0.2.8', 'dst\_ip':'198.51.100.8'}, {'src\_ip':'192.0.2.9', 'dst\_ip':'198.51.100.9'}, {'src\_ip':'192.0.2.10', 'dst\_ip':'198.51.100.10'} ]" | outputcsv /opt/logpresso/files/ippair.csv src\_ip, dst\_ip

マクロを利用し、ログ発生年月日でディレクトリを指定し、現在時刻を基準にファイル名を生成して**src\_ip**および**dst\_ip**フィールドの値を記録

json "[ {'src\_ip':'192.0.2.1', 'dst\_ip':'198.51.100.1'}, {'src\_ip':'192.0.2.2', 'dst\_ip':'198.51.100.2'}, {'src\_ip':'192.0.2.3', 'dst\_ip':'198.51.100.3'}, {'src\_ip':'192.0.2.4', 'dst\_ip':'198.51.100.4'}, {'src\_ip':'192.0.2.5', 'dst\_ip':'198.51.100.5'}, {'src\_ip':'192.0.2.6', 'dst\_ip':'198.51.100.6'}, {'src\_ip':'192.0.2.7', 'dst\_ip':'198.51.100.7'}, {'src\_ip':'192.0.2.8', 'dst\_ip':'198.51.100.8'}, {'src\_ip':'192.0.2.9', 'dst\_ip':'198.51.100.9'}, {'src\_ip':'192.0.2.10', 'dst\_ip':'198.51.100.10'} ]" | outputcsv partition=t /opt/logpresso/files/{logtime:yyyy/MM/dd}/{now:HHmm}.csv src\_ip, dst\_ip